

さよなら COLOR カラース

adios!



第35号

発行所 東京都中野区中央5丁目1番2号西田ビル4階 〒164-0011 からす新聞本社 電話03-3382-5963 ©からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/> 投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

私の高校時代の恩師に「ふみちゃん」という可愛らしい愛称で呼ばれていた女性がいます。ふみちゃんと呼ばれるだけのことはあり、なるほど、なかなかキョートな人物であった。寛容の精神に富み、私の欠席などもさして気にせず、二週間に一度という程度の出席率であったのに、その点に関して云々された記憶は殆どない。授業では滅多に顔を合わせなくとも、廊下で擦れ違つた時に前歯がはみ出るような微笑みで迎えてくれたものである。彼女の魅力は、そういう度量の大きさばかりにあるのではない。明確なスタンダードをもっていること、かつ、それを忽せにすることなく、安定したスタンスで物事に臨んでいたところ、それが一番の魅力だったのではないかと思う。

かな、などという話をしてるときに判明したことがある。天候次第で休んでしまうのは私だけではなかったのだ。同志はふみちゃんであった。予てから彼女を憎からず思っていた私にやりとしたことは容易に想像できるだろう。映画であれば、このことをきつかけにしてふたりが恋に落ちたりしても良さそうな場面だが、生憎、先方は定年も過ぎて、非常勤講師として週に何度か教鞭を執るという方、つまり、齢は私の四倍ほどの女性であり、残念ながら、私たちの間にはドラマのような恋は生まれなかった。後日、ふみちゃんに、天気が悪いと休みますね、と話かけた折の返事。「だって、あなた、こんな齢になれば雨じゃ足許が悪くて出がけられませんよ。怪我でもしたら、どうするの。」
今となっては、遠い記憶であるが、概ね、このような科目が返ってきた。斯くして、ふみちゃんは雨や雪の日には休むのであった。

(最終面に続く)

からす新聞は学習塾カラース

が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行してきました。
誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。

今日の紙面から

二面(ブラザー画)

松本と話をうんぽんパン

口だけ男のナチズムを語る

三面(第一国際面)

ヤンヒポのオウ・イツツ・クール

四面(からすライブラリー)

本。火星入ゴホム

CD。ロール・オン

映画。シューティング・スター

六面(第二国際面)

ロンドンレポート

さよならカラース。これからは?



松本と話そう。ピン、ポン、パン

ますます湘南の海は明るくなってきました。

カラーズのよい子のみなさん、元気ですか？

もう、全くあのカラーズの箱に出入りしなくなって1年が経ちました。5キロ体重増えました。髪は300本は増えたような感じがする。よい子のみなさんはどう変わったのでしょうか？

新世紀会やりたいね。とにかく、カラーズに縁があった人はみんな顔を合わせよう、という主旨で。お互い今どんな感じよ、っていうのの見せあっこ。(余談だがAIKOは何であんな可愛い歌作れるんだらう)そこから、色んな未来の見せあっこ。(でもAIKOはTOKIOの国分になぜ惚れるんだらう?)何時に来てもいいし帰ってもいい。そう、その日は24時間、箱のドアは開けっぱなし。会が終わって来てもいい。中村さん(俗称、弥生町の偽ボール、偽村上龍)が来てもいい。とにかく、カラーズを横切ったり、当たったり、歩いたりした人がね。

墨汁と筆置いて、書きたいこと書いていく。ラジカセセットして24時間、録音ONにしておく。ポラロイドカメラ置いて、自分で自分を撮って、どこでもいいから貼って帰る。とかね。

BEATLESがまた売れてる。シングルで1位をとったやつ(の寄せ集めで、200万枚今とこ売れてるようだ。ABBAが売れてる。ベストの「ゴールド」が50万枚突破らしい。そのリアルタイムの人だけではなく、もっともっと若い、若い人たちがキャッチしている模様。仕事先の10代の高校生にビートルズのことをよく聞かれる。こないだ、近所の幼稚園の子供がABBAの「チキチータ」をめちゃくちゃ英語で歌っていた。イイぞ。

「微妙に」という言葉がよく今の10代の連中の話しのなかで使われている。そして、やっぱり、相変わらず彼ら、彼女らの親の好きな「とりあえず」も。色々と彼らについては(そう、カラーズのよい子のみなさんも含めて)全く得体のしれない異人みたいにいわれている。自己中だ、などと。が、全く変わってない。簡単にDNAが変わるもんか。もともと日本人は自己中じゃないか。勝手によその国に出て行って何百万という人を殺しまくっていたのは、そしてそのくせ被原爆投下国だなんて哀れなふりしていたのはついでにオレらの祖父さん、祖母さんたちだけ。それだからこそすぐ外の目、人の目、反応を気にする。(アメリカの言いなりだろ、対人恐怖症なんていう神経症は圧倒的に日本人に多いだろ。)そんな自分だということがバレたくないためにそうしてるんだよ。こないだのホーム転落事故で、あれほど大騒ぎになるのはいかに自己中かの現れだね。くだらない。ま、オレは宇宙人だからどうでもいいけどね。

てなこと、みなさん、お元気で。また。

口だけ男の「ナチズムを語る」Summer 3

最近、ドイツ人の一部の間で間で『88』という隠語が流通しているという記事を新聞に載っていた。この一部の人たちというのは、ネオナチと言われるナチス(新奉)を信奉している人たちの事だが、『8』とはアルファベットの八番目、つまり「H」のことを指している。それを2つ並べて「HH」を意味している。で、この「HH」は「Heil Hitler」(ハイル ヒトラー、ヒトラー万歳!の意味)の頭文字で、それを指しているという。

どうもこの男の「呪い」は強力で、魅力的で、そう簡単には解けないものらしい。今日話そうと思うのはこの男の「呪い」について、つまりこの男が何を考え、何を夢見たか、である。

アドルフ=ヒトラーがどんな人物なのかということが、これほど激しく変化した人物はないように思える。奇人、狂人、天才、英雄、臆病、冷血、ニヒリスト。すべてヒトラーに冠された言葉である。

歴史家の評価を例に挙げてみたい。戦後すぐの評価では、ナチズムの政治は「革命」であるが権力のためのものであって、なんら具体的にヒトラー自身に目標や理念のないもの、つまり当時の権力を倒したのはただ権力が欲しいからだけで、何かを変えようとするものでないといわれた。それゆえに「ニヒリズム革命」と称されたりした。

'60年代に入るとヒトラーには自分の理想、理念を計画どおりに、プログラム通りに実行した政治家であるとの評価や、一方でヒトラーは一部の大規模資本家やナチ党の力関係の中で必要とされた「象徴」みたいなものだ、などと言われたりもした。

また彼自身の性格なども色んな事が言われた。ヒトラーは梅毒の末期で頭がおかしくなっていた、だとか、実は彼自身ユダヤの血が混ざっていたなど、それこそ眉唾ものが飛び交っていた。(ちなみに梅毒云々とか、ユダヤ人の血云々というのは事実でないことが今はわかっている)

私はヒトラーをどう見ているか。それは彼なりに理念、理想を持っており、それを実現しようとしたのは事実だらう。ただし彼が興味を持っていて、知識のある分野に限られる。

例えば軍事、外交、人種問題など。事実一部の軍事的分野では天才的なヒラメキを発揮したりした。対フランス戦の作戦の立案では悉く軍の首脳が反対したある参謀の作戦を、ヒトラーが認め、事実大成功した。(その参謀は当時無名だったが第二次大戦終了後、世界の軍事専門家の中で最も優秀な軍人の一人にあげられた)

しかし彼が全く興味を持たなかった分野では、全くといって良いほど関与せず、その分野では派閥争いみたいなことになり、ヒトラーは飾りみたいなもので、(鎌倉時代以降の天皇の存在に近い)実質的には存在しない

に等しかったところもあるのだ。

ではヒトラーの夢について少し描いてみよう。彼が夢見たのは「ゲルマンの復興」である。「ゲルマン」とは大まかに言えば今から1500年前ぐらいに現在のドイツあたりから北欧の一部に住んでいた部族たちを指し、細かく言うと、「ドイツ人」を指す。まあドイツ人とそれに近い(と思われる)民族をさしていると思ってもらってかまわない。

その「ゲルマン民族」がユダヤ人に支配されている。ユダヤ人からの支配から自立を取り戻し、ユダヤ人を追い払わなければならない、と考えたのである。

ではなぜ「ドイツ人」は落ちぶれたのか?という疑問にヒトラーはこう答える。

かつて優秀だったゲルマン人がいろんな人種と「交配」した事で、ゲルマン人の純血が犯されたがゆえに、その能力が落ちたからだ、というのである。そしてその張本人がユダヤ人であるのだから彼らを「排除」してゲルマンの純血を取り戻さなければならない、と主張したのである。

なんといんちきな理屈だと思うでしょ?確かにそうなのだが、実は当時は一見すると信じ込んでしまう力があつた。それはこの理論が一応「科学理論」を基にしていたからだ。それはダーウィンの「進化論」にある、「自然淘汰」の理論だった。

知っている方も多いだろうが、簡単にいえば生物の「種」はその環境に適應する能力があるものが生き残り、そうでない「種」は滅ぶというものだ。その理論を基に、それで優秀な「ゲルマン人」は劣った他の民族を淘汰する、という理屈を導き出したのである。

一応、どこがいんちきが答えていたほうが良いような気がするので答えておくと、まず「ゲルマン人」は「民族」であって、「種」でないということ。民族は遺伝で決定されるものでないというもだからだ。分かり易くいうと、目で見て分る身体的特徴でない、例えば髪の色、目の色、背の高さ、などで民族は決定できないのだ。

それにもう一つ。仮に、民族が「種」であつてもすでに有史の中でユダヤ人が淘汰されたりしていないということ。つまり劣っているのであれば、消えつつあったり、すでに消えてなければおかしいのだ。

もう一つ、寄り道を許していただきたい。ここで「民族」とはなにか?ということを考えてみたい。これについては重要だし、結構あやふやな人が多いと思うので少し詳しく、突っ込んでみたく、この続きは次号ということで。(松本修樹)

やんひぼのOh, it's kool!

ここの所、アメリカンカルチャーから遠い話ばかりだったので、久しぶりにカリフォルニアのトレンドを覗いてみよう。

最近のイチ押しはこれ、「Zappy」。早い話、電動のキックボードなのだ。日本でも少し前にキックボードが流行ったが、当然ながら元々は南カリフォルニアのビーチで流行した代物。さらに古い話になるが、日本でも「ローラースルー・ゴゴゴ」ってものもあったが、流れとしては似ている。そのキックボードにモーターを付けたものが「Zappy」なのである。



あまり知られていないかもしれないが、スケートボードに芝刈り機用のエンジンを付けたもの「MotoBoard」やキックボードのエンジン付き「Go-Ped」なるものは古くから作られていた。読者も何かの映像で見た事が有るかもしれない。

アメリカって国は自動車の車検なんてものが存在しない国なので、そういう意味では、新しいモノを個人で開発、販売する事が大変容易な国なのだ。小学生の時にスケートボードで遊んだ際、これにエンジンがついてたらどんなに楽しかった事は無いだろうか。もう少し平たく言うと、中学生までは自転車を転がしているが、高校生になると原チャリに変えて走り回ると行動範囲や生活形態が一変するはずだ。自分の足でコイでいたものを動力に頼るといのは極自然な要求と言えるはずなのだ。ここで、米日の差違がはっきり現れる。日本国内は道交法を初め、道路運送車両法などの法規制により一般公道での使用に対しては大変厳しい規制を強いている。ここで、法規制の是非は論ずるつもりは無いが、御上に認められない限り実際の使用もだが、販売となるとほぼ不可能と言えるだろう。また、認めさせるには膨大な費用、時間、労力が必要となり、町の発明家には到底成しえない



ハードルとなるのだ。因に、一般公道とは一般に通行できる道路なので、個人の私有地で塀で囲われた所以外は全てだと思って良い。だから、町の公園内で小学生が原チャリを運転すると無免許運転になるのだ。

だいぶ話が横にそれたが、そういったアメリカの土壌を踏まえて「Zappy」も進化した結果なのだ。動力がエンジンだとしても騒音や振動が有るのでスマートとは言いがたい。また昨今のPCブーム、特にノートパソコンの発達に伴い充電可能電池の性能も飛躍的に向上したのを受け、電気をエネルギーとする電動式もそれなりの性能を出してきているので、エンジンの替わりに電動モーターというのも自然な成り行きだろう。気になる性能だが、カタログ上のスペックでは(Zappy Turbo) 最高速度 19mph (時速 30 キロ)、巡航速度 14.9mph (時速 24 キロ)、航続距離 10miles (16 キロ) となっている。本当にこれだけのスペックなら、ちょっとスーパーへ買い物なら十分楽しいだろう。尚、上記スペックの「Zappy Turbo」は5月15日出荷開始の新製品である。従来の「Zappy」は最高速度 13mph (時速 20 キロ)、航続距離 8miles (12 キロ) は既に 30000 台を出荷したらしい。その他にも「Zappy Jr.」「Star Wars Scooter」など色々なタイプが有る。また、自転車にモーターを取り付けるタイプや、水中用のドライブなども販売している。当然の事ながら筆者も「Zappy Turbo」を発注した。到着が待ち遠しい所である。また、到着次第インプレッションしてみたいと思う。そうそう、価格だが、「Zappy Turbo」は \$699.99、「Zappy」は \$599.99 となっている。日本からのオーダーも受けてくれるようだ。<http://www.zapworld.com/> に詳しく見る事ができる。また「MotoBoard」(エンジン付きスケボー)の関係は <http://www.motoboard.com/> より購入できる。当然英語だが、...

最後にもう一つだけ。南カリフォルニアはウォータースポーツも発達している。最新の注目は「Air Board」。少し前に「Air Chair」ってものが開発された。水上スキーの板に水中翼船の原理で羽を付け、スキー板事態を水面から浮かせて走るスキーだ。当初、着座姿勢で乗る為に「Air Chair」と名付けられたが、これをさらに改良して、スノーボードのような格好で乗れるようにしたものが「Air Board」だ。残念ながら「Air Chair」の情報 <http://www.airchair.com/> しか探せなかったが、今後注目していきたい。

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。
あなた一人で悩まないでください。

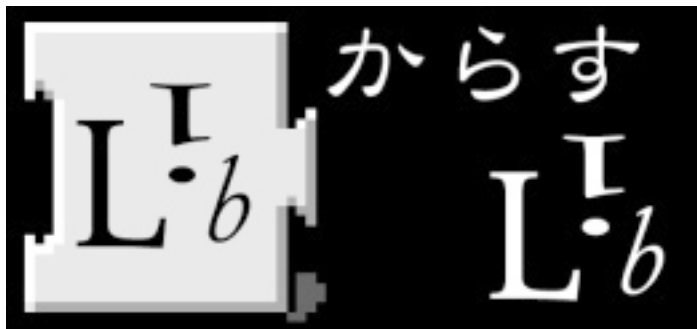
ストーカーバスター

相談無料
秘密厳守

防犯用品販売・
防犯対策指導も
致します。

produced by
P.D.Agency

tora@pda.co.jp
1843 N. Cherokee AVE: APT. #216
Los Angeles: CA 90028, USA
voice : +1-310-493-1001
facsimile : +1-323-466-5645



『ロール・オン (ROLL ON)』

リヴィング・エンド (THE LIVING END)



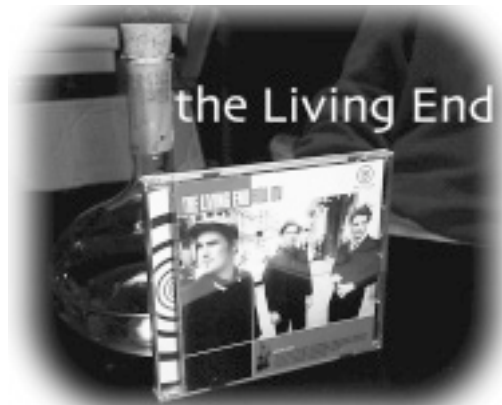
CDs

REPRISE、2000年、WPCA-10880

オーストラリアって聞いて何が思い浮かぶでしょうか？カンガルーがいる国、首都がシドニーって思われがちな国。よほどオーストラリアが好きじゃないとたいして思い浮かぶものがないと思います。僕は全然ありません。そんなことはどうでもいいのですが、今回紹介するのは、そんなオーストラリアのバンド、リヴィング・エンドです。

彼らの曲は今の日本のメロコアだの何だのとはい違い、どこか懐かしい感じの曲がほとんどです。でもその懐かしい感じが逆に新鮮だったりします。よく「ストレイ・キャッツ」っていうバンドに例えられたりしています。でも僕は「ストレイ・キャッツ」っていうのを聞いたことがないのでなんとも言えませんが、知っている人はこのCDを聴いてどう思うでしょうか。感じ方は人それぞれですが、結構、っていうかかなりカッコイイと思いますよ、僕は。

(くわ原ヒロユキ)



『火星人ゴーホーム』

フレドリック・ブラウン (稲葉明雄訳)

Martians, go home (Fredric Brown) 1955

ハヤカワ文庫 1976

ISBN4-15-010213-9



Books

大リーガーとなった新庄は「宇宙人」だそうだが、果たしてその実力やいかに？活躍できればよかるうが、箸にも棒にも、否、バットにもグラブにも引掛からないようだと、地元ニューヨーカーはもとより、日本のマスコミにも寄ってたかって

Shinjo, go home!

など言われかねない。そうなったらピンチである。

「そうか！ だったら本当の宇宙人に助けてもらおう！」

新庄だったらそう思うに違いない。確かにいる。火星である。十億もいる。彼らが新庄の味方になってくれればいいのだけれど……。

外見は、緑色した一寸法師。火星人たちは、味方になってくれれば心強い。一人の例外もなく、口汚く、挑戦的で、礼儀知らずで、傲慢で、気分屋で、おしゃべりである。

「おい、それにしても汚ないね、君の家は。名前は？シンジョー？へっ、くだらん名前だね。それ何語しゃべってんの？って、君、英語わかるの？わからないでしょ。えっ？何しに来たの？このくだらん星に動物園というのがあるだろ。君たちは、何であそこに行くんだい？……」と、万事この調子の連中のことを味方だと思ってしまう確率が、自らの生涯打率を上回る可能性を否定しきれないのが新庄の「宇宙人」たる所以でもあろうが、ともかく、突然やって来て至るところで邪魔に入りまくる火星人の出現に、地球の運命やいかに。

(望月)



シューティング・スター (le Ciel est À Nous)

1997年公開 (フランス)

ビデオ・DVD：日本コロムビア

監督・原作・脚本：グラハム・ギット

出演：ロマーヌ・ポーランジェ、メルヴィル・ブポー、ジャン＝フィリップ・エコフェ、エロディ・ブーシェ



Films

ギャング系の映画は後を絶たない。きっと世界のあちこちで今も製作中であることだろう。後を絶たないギャング物というジャンルの中、さらに、男女二人組という分類を置くことも可能かもしれない。一番に浮かぶのはボニーとクライドだろうか。魅力的な二人組の魅力的な映画であった。

匹敵するとは言いえないものの、この作品のジュリエットとレニーだってなかなかのもの。娼婦というにはあまりにあどけないロマーヌ・ポーランジェと一流のギャングどころか町の不良が精一杯といったところのメルヴィル・ブポー。ふたりの呆気なさど展開の早さが爽快感を醸し出す。

終わりに方に些か不満が残るものの、なかなかの作品だ。この映画のロマーヌ・ポーランジェとなら、私だって無茶な逃避行をしてもいいような気がしなくもない。

(全太)



Rei's Gallery



『わたげ』

一月ぶりの登場です。お休みごめんなさい。

今の私の心情にピッタリの作品。
これは2月のめちゃくちゃ寒くて、大雪が降った頃に
春よ来いと思いながら描いた。

私はここ何ヶ月か、ずーっとアトリエに引きこもり状態の生活を続けていた
せいで、外の世界が春になっていたのに気付くのに遅れ、
今だ重ね着に、マフラーなんてやってしまっている。

そして、4月からどーしよっかなーっていう
進路未定のふわふわ状態の私は、まさにこの絵のたんぽぽの綿毛状態。
なにげなく2月に描いた絵は、自分の1ヶ月先を予言していたのか？



#02 ちょっとした事

ロンドンがどんな街かと聞かれると、ちょっと困ってしまう。観光名所は色々在るものの、もともと観光のつもりでは来ていない所為か、五ヶ月が経とうとして今でも、行ったことの無い所が結構あったりする。最近ではちょくちょく回って見ているのだが、やっぱり観光名所は街を説明するときにはあまり役に立たない気がする。個人差はもちろんだと思うが、観光名所自体は歴史や文化と関わりがあっても、生活そのものにはあまり関わってこないせいだろうか。トラファルガー広場の大きなライオンも、初めて見た時は「おお、本当に写真と同じだ」と感動したものの、二回目、三回目はちっと目をやる程度になってしまった。しかも昼間はこれでもかと言うぐらい鳩がいるので、あまり好き好んで行く気にはなれない。じゃあ、何をとってこんな街だと言えればいいのだろうか。やっぱりちょっと難しい。初めてそのことについて考えた時に何となく「東京みたいな街だ」そう、思った。もちろん、大きな公園があったり石畳の道があったり、建物の様子が違ったりするのだが、人々や生活していて受ける雰囲気から何となくそう思ったのだ。要するに、簡単にパッと、これこれこんな街でここが良い所だと、思い浮かばなかったのである。別にロンドンが嫌いなわけではさらさら無いのだが、田舎の町に行ったほうがその場所を好きになれる気はずっとしていた。

現在、自分が住んでいる所は、中心から地下鉄で20分ぐらゐの普通の住宅地といった感じの地域で、駅前的大通りにはお店が色々並んで

いるものの特別きれいな町並みではない。ある日、駅を降りると、雨足が強かったので、仕方がなしに傘を差して歩き出した。歩き始めてから一分もしない内に雨がすうっと止んでしまったので、ふと、足を止めて傘をたたみ、空を見上げた。雲のあいまからは晴れ間が差している、心なしか風も心地よい。その時初めて、さえない商店街、並ぶ店々の二階にあたる部分が視界に入った。それはやっぱりヨーロッパの家並みだった。今まで、一階部分のお店の所ばかりに目がいっていたせいか気付いていなかったのだ。パッとしない店、建物の一軒一軒がイギリスの家を主張している様な気がした。それは、ちょっとしたきっかけだった。

暦の上ではもう春だというのに、相変わらずまだ肌寒い日が続いている。先日は雪がちらついていた。学校が終わり家に帰る途中、桜が咲いているのに気がついた。日本のものとはちょっと種類が違うように感じるが、それでもやっぱり美しい。夜に飲みに行く約束があったので、雨が降っているかどうか、部屋の窓から外を覗いて見たところ雨は降ってはいなかった。キツネがトコトコと家の前の道路を横切るのが見えた。ロンドンでは、結構頻りにキツネや、リスを見ることが出来る。さすがに街のど真ん中では見ないが、住宅地ではそんなに珍しいものではないらしい。雨が降っていないうちに、と家を出て地下鉄に乗り、約束場所のチャーリングクロス駅で降りた。地上に出る際に出口を間違えてしまい、トラファルガー広場の中に出てしまった。「間違えた」と思うと同時に、ライトアップされたライオンや噴水に気がついた。昼間はたくさんいる鳩や人はほとんどいなく、心地よい静けさが流れていた。いつの間にか、また雪が降り出している。実にいい所だ、そう思った。

今でも、ロンドンがどんな街で何処が良いのか聞かれるとちょっと困ってしまう。ただ、何処かに暮らすと言う事は、少しずつその場所に慣れてゆき、その生活の中で、少しずつその場所の良い所を見つけていく事のような気がする。人と付き合う事と似ている。人それぞれの気に入るポイントは違うのだろう。僕が日本に帰るころ、僕はどれぐらゐロンドンが好きになっているんだろうか(神山)

Where to go?

さよならカラースに伴い、からす新聞社も移転します。

移転先は、杉並区の阿佐ヶ谷団地内。最寄り駅は、丸ノ内線南阿佐ヶ谷駅です。

電話番号は、

3220-4679 (Zeta 内 fax もウエルカム。番号同じ。)

5377-4088 (望月)

メールアドレス、ホームページ URL に変更はありません。

e-mail : colors@go-karasu.com

home page : <http://www.go-karasu.com/>

からす新聞は来号よりリニューアル。ただいま、投稿してくれる人、その他何でも協力してくれる人、大々募集中!

Who knows?

そういうものかは？

模擬試験その十三

今年の桜は早かった。この号が出るころには、もう散ってしまっているに違いない。みなさん、桜はどうでした？

吉田兼好の『徒然草』にこんな一節がある。多くの古文の教科書に出てくるから、記憶の隅にでも残っている人もあるかもしれない。

「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは。」(百三十七段)

「桜の花は満開のときに、月は影もなく煌々と照らすのだけを見るものなのだろうか？(そんなことない)」

古文では、文のいちばん後ろに「かは」が付くと、「いや、そんなことはない」のニュアンスになる。私たちも日常的に良く使う、いわゆる「反語」である。

英語の嫌いな、あるいは嫌いだったあなたなら、一度ぐらいはこう思ったことがあるはず。

「なんで英語なんかやんなきゃいけないんだよ！」

そのココロは、「いいじゃねえか、やんなくても」

いつかどっかで、役に立つこともあるかもしれませんが。ですから、さっそく「花は盛りに～」を英語にしてみるとこんな感じ。

Should we only look at flowers in full bloom, at the moon when it is clear?

英語で反語を言うときには、基本的に疑問文。もちろんそのままの質問する意で使うこともあるが、文脈によって、反語として使うこともできる。このように、shouldを使ったものはよく見聞きする表現の一つだ。つまり「～すべきなの？(ちがうよね)」。

「なんで英語なんかやんなきゃいけないんだよ！」は、

Why should I study English?

となる。

ところで、冒頭の兼好の言葉の真意は何なのだろう。

これは要するに、大多数が良しとする物事に対する反語なのである。彼はこう続ける。

「今にも花を咲かせそうな梢も、桜が散ってしまった後の庭も十分に素晴らしい。」

みんなの関心は花にばかり向くけれど、むしろ盛りに向けた予兆や、過ぎた後の名残こそが、彼の好みなのである。あまのじゃくである。

たしかに、大多数が良しとするものに、それなりの理はある。しかしそれのみかは。それだけじゃあるまい。あまのじゃくにも理はあるはず。それでは、多数の常識に斬り込みなどしつつ、反語表現を使った表現のいろいろを練習してみよう。

.....

問題 次の日本語を英語にせよ

1. 「マジで、ベータよりVHSの方がいいと思ってんの？」
(思っていないよね)
2. 「なんでモリくんじゃダメなの？」(いいじゃないの、モリくん)
3. 「あの人がカツラかぶってるかなんて、あたしが聞けると思う？」
(あんた、できるもんならやってみなさい)
4. 「酒なんか飲んで何になるの？」(何にもならない)
5. 「塾ってほんとになくなっちゃうの？」(なくなるよ)

.....

解答

カッコ内は直訳

1. “How can you say that VHS is better than BETA?”
(どうしてあなたは、ベータよりVHSの方がいいと言えるのですか)
2. “Why should Mori-kun quit his job?”
(どうしてモリくんは彼の仕事を辞めなくてははいけないのですか)
3. “How can I ask him if he uses a toupee?”
(彼がカツラを使ってるかどうかを、どうして私が聞けるでしょうか)
4. “What's the use of drinking?”
(酒を飲むことの効用は何なのですか)
5. “Would the juku be closed?”
(その塾は閉鎖されるのでしょうか=基本的にあり得ないことをいう仮定法)
本当です。でも、当新聞そして私の連載は心機一転、続けます。兼好法師の言を借りれば、
「よろづの事も、始め終りこそをかしけれ」
(何事も、始めと終りは趣深いものだ)
(望月)

アクアネット
Let's mind the harbour!



湊文社
SORUNSHA

交和パレイユ
Kowa Pareille

祝福の宴の演出を
してみないか。

03-3371-8264

中山歯科クリニック

診療時間AM9:00 ~ PM9:00
水曜・土曜AM9:00 ~ PM6:00
休診日・祭日

03-3381-1109

(一面から続く)

のような存在を許容する精神があったのは確かである。

私のことは扱置くとして、ふみちゃんも君たちの目にはどのように映るだろうか。途んでもない教師だろうか。そういう声が多く聞こえそうではある。確かに、常識からは逸脱していたかもしれない。しかし、そのことが不適切な教師である、という根拠にはならないだろう。考えて欲しいのは、その辺りのこと。常識や慣習が宜しくない、ということではない。実際のところ、そんなもののおかげで、社会が滑らかに進んでいくのである、という側面もある。判断に困ったときのひとつの基準ともなりえる。けれども、君たちには常識に安住して欲しくない。常識だから、慣習だから、などと言って、考えることを放棄して欲しくないのだ。なぜ、それが常識になっているのか。少なくとも、一度は疑わなくては。



Ken-ichi Shinozaki, architect

4-3-44-1 Narita-higashi, Suginami-ku,
Tokyo 166-0015,
Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp

篠崎健一アトリエ

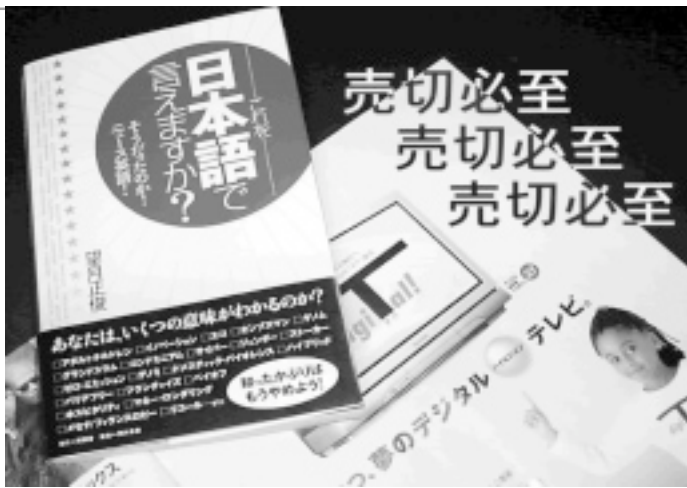
君の脳みそは何のためにあるのか。躓いたときに頭から落ちやすくなるための、およそ一四〇グラムの重しとしてあるわけではないし、風邪をひいたときに頭痛で苦しむためにあるのもない。誰かに空っぽだと見破られないための詰め物なんかではないし、死亡判定の道具として存在するわけではない。そう、脳みそは考えるためにあるのである。さあ、考えたまえ。考えたまえ。考えたまえ。毎日が発明である。毎日が革命である。そんな風にして生きてもらいたいのだが、これは無理な相談だろうか。いやいや、脳みそをまともに使う気になりさえすれば、可能なことなのだ。それにしても、あと半世紀早く出会っていたら、ふみちゃんと私は恋に落ちていただろうか。今度、雨が降ったらゆっくりと考えてみることにしよう。

(全太)



万年筆なら dani

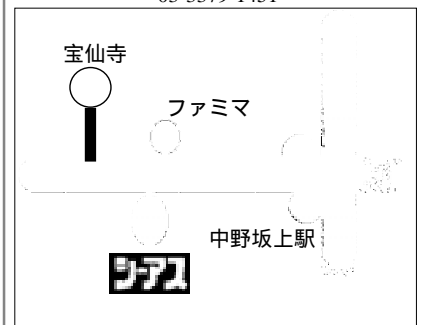
<http://danijapan.com/>



1クラス4人までの少人数制学習塾



中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451



編集後記

からす新聞第三五号、無事、発行できました。新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。次号発刊予定日は二〇〇一年四月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

来社見学を御希望の方は左記のところへ。
丸ノ内線新中野駅徒歩〇分

